

平成30年度「幼児教育フォーラム」の内容・講師

※各回とも、午前9:00～12:00（受付8:30～）です。

番号	月日	曜	形式	話題提供・テーマ・題材	講師名	所属	お薦めポイント
第1回	7月21日	土	バズ討論	事例から援助を考える	久保田貴子先生	元附属幼稚園副園長	<ul style="list-style-type: none"> ○4月から、新しい幼稚園教育要領がスタートしました。みなさんの園では、どのように取り組んでいますか？ ○長きにわたり幼稚園現場にいらして幼児教育の変遷を熟知されている久保田先生に「視点」を頂き、新要領の趣旨を踏まえた保育のあり方について考えるきっかけをしたいと思います。ある幼稚園の保育場面のDVDを見て小グループで討議するなどしながら、日頃の悩みを出し合い、明日からのヒントとエネルギーがもらえる楽しい会にしたいと思います。
			ワークショップ	折り紙ヒコーキであそぼう！	田中 洋先生	大分大学教育学部准教授	<ul style="list-style-type: none"> ○折り紙は日本独特の伝統文化です。加えて、紙ヒコーキは、子どもたちの大好きな遊びであり、実は、様々な折り方や飛ばし方の工夫がある奥深い遊びでもあります。 ○今回は、幼児期の遊びに詳しい大分大学の田中先生に、折り紙(正方形)を使った紙飛行機を教えてください。広い空間が無ければ飛ばす楽しさは味わえませんが、幼稚園や保育園でぜひ体験させたい遊びでもあります。
第2回	8月4日	土	講演	授業や保育に生かす「パネルシアター」～特別支援教育の視点から～	渡邊繁治先生と「DANパネ団」	パネルシアター劇団DANパネ団 主宰	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアノ、手遊び、読み聞かせ・・・子どもを引きつけるスキルをもう一つ増やしたい方にお薦めです。「パネルシアター」はいかがでしょうか？ ○視覚に訴え、子どもに語りかけながら話進める「パネルシアター」は、特別支援教育にも有効な教材です。子どもの定番のお話から自作のお話まで作ることができます。「パネルシアター」の教育的な効果についてお話頂き、実際にいくつか上演して頂きます。
			ワークショップ	パネルシアターの製作			<ul style="list-style-type: none"> ○パネルシアターは、パネル上で人物の絵を動かしながらお話を進める「動く絵本」であり、観客とのやり取りしながら話を進めていくライブ感いっぱいの「人形劇」でもあります。 ○話し手のテクニクが必要ですが、だからこそ程良い手応えがあり、小学校では高学年の委員会活動などで子供たちに製作させ、集会などで発表させるなどすると面白いのです。今回は、作品を1つ製作し、演じ方まで指導していただきます。
第3回	10月20日	土	シンポジウム	「子ども園ってどんなところ？」～認定こども園の現場より～	永田 誠先生 with 2つの認定子ども園	大分大学教育学部	<ul style="list-style-type: none"> ○今、社会的ニーズの高まりから、殆どの自治体で、保育園や幼稚園の「認定子ども園」への移行が進んでいます。それに伴って、これから子ども園化を進めようとしている園、既に子ども園に移行したが様々な課題を抱えて試行錯誤をしている園と、幼児教育の現場は、子ども園化をめぐるさまざまな議論が巻き起こっていると思われれます。 ○大分大学の永田先生をファシリテーターとして、2つの子ども園さんに問題提起していただきながら、「子ども園化」をめぐる様々な課題を取り上げていきたいと思います。 ○昔の遊びでありながら、スポーツとして世界中に普及している「けん玉」は、年齢を問わず、場所を取らず、遊び方の種類は無敵であることにその特徴があります。 ○「粘り強さ」や「コミュニケーション力」など非認知的能力が身につく、年長児にも充分取り組める遊びです。幼稚園の子供たちへの指導もしている佐藤先生に楽しい遊び方を教えてください。
			ワークショップ	幼児から楽しめる「けん玉」遊び	佐藤十九生先生	大分市立春日町小学校教諭	
第4回	11月10日	土	講演	すべての子どもがいきいきと生活できる園(学級)づくり	田中裕司先生	大分大学教育学部附属特別支援学校特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ○～ができない子、言わない子、もたもたしている子・・・発達の遅れや親のしつけのせいにしていませんか？原因をいくら追求しても、その子どもの困りを手助けすることにはなりません。 ○全てのこどもたちが、自分の居場所と課題に向き合い、いきいきと生活できる園であり学級であるためには、何が必要なのでしょう。教育の原点を考えさせられるお話です。
			ワークショップ	応用行動分析「当たり前のできることということ」			<ul style="list-style-type: none"> ○子どものつまづきを「細かい目」で見ると、「なぜ？」を探る(無意識の意識化)と、具体的な手立てが見えて来ます。そして、そのつまづき克服のための特別なメニューが見えて来ます。 ○幼いこどもたちや障がいのある子どもたちによく見られる「つまづき」を取り上げ、「細かい目」で見るという作業をグループで行います。交換して見合い、多くの手立てをお土産に持って帰りませんか？
第5回	2月16日	土	講演	たのしい造形あそび～幼児期の発達を踏まえて～	石川照代先生	大分大学教育学部附属幼稚園 園長	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や実物を見せ、「よく見て描こうね！」と言っていますか？「小さいね！もっと大きく描き直してごらん！」と言っていますか？あらかじめ、描かせたいイメージが頭にありませんか？ ○幼児期の子どもたちが、自由に思いのままに描く絵は、ピカソやクレーがあこがれたほどで、大人には決して真似のできないものです。幼児期の造形的な能力の発達段階をきちんと踏まえ、この年齢にしかできない表現を愛おしみながら指導する方法をご提案致します。
			ワークショップ	園庭の自然を生かしたネイチャーゲーム	牧野治敏先生	大分大学教育学部高等教育開発センター准教授	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者の持つ視点1つで、落ち葉1枚が、園庭の片隅が、子どもにとって魅力的な遊びの場となり環境となります。子どもたちを自然や理科好きにする手立て満載です。 ○牧野先生は、毎週のように地域の子どもたちに、自然観察会やネイチャーゲームを指導されています。 ○園庭や近所の公園、自然のある所ならどこでも応用できるので、きっと保育活動のヒントになるでしょう。

○お申し込みは、別紙申し込み用紙で、FAXにてお申し込みください。1年分、数回分まとめてのお申し込みも可能です。HPからダウンロードすることもできます。
○持ち物などについては、1週間前までにホームページ上に掲載します。また、申込者には、FAXにてお知らせいたします。